

「芸人としての経験を子どもたちに伝える生きた教材になれ！」。当時、私が出演していた番組の司会者であった大先輩からいただいたこの言葉を信じて、私は芸人を辞め、小学校教師を経て大学教員になりました。

今秋、21年ぶりにその先輩に再会し、報告する機会を得ました。「小学校の教員を養成する教育学部の教員になりました」「准教授になりました」。私はせきを切ったようにたくさん報告をしまし

⑧ 人生を楽しむ



た。笑顔で聞いていただき、うれしくなってきたら「小学校教員時代に夜間の大学院に通った。仕事の後の勉強や修士論文の作業は忙しく、逃げ出しそうなお仕事があったけど、先輩の言葉を胸に頑張ることができました」と感謝の言葉をお伝えしました。



しかし、なぜか反応はイマイチ。手応えのなさに不安を感じて

いると先輩からこんな言葉をいただきました。「頑張った、忙しいと言った時点で、次には進めない。世の中ちよろいなあとと思って、人生を楽しむことが大切」

私はテレビ局のカメラアシスタント、芸人、小学校教員、科学館

職員とさまざまな仕事をしてきましたが、結局、どの仕事も忙しいし、しんどい。しかし、同時にどの仕事も前を向けば楽しかった。本当に忙しい時は、弱音を吐くことも大切ですが、楽しむことでもらさることを楽しむこともできるはず。



思い返せば、芸人時代にネタづくりで苦労したことがありまし

た。若手の私からすれば憧れの吉本新喜劇の舞台なのに「忙しいのにまた頑張るってネタを考えなあかん」と愚痴ってばかりでした。今思えば、気持ちを切り替えてもつと舞台を楽しめばよかったなあと思悔しています。

そして先輩からいただいた言葉と自分の後悔を生かす方法を思い

大学の先生方に呼び掛けました。すると、仕事の合間を縫っての勉強会なので忙しいにもかかわらず、私の予想を超えたたくさんの先生方が意欲的に勉強会に参加してくれています。



この前向きな気持ちはきっと学生に伝わり、大学全体にすてきな授業が広がっていくはず。そして、楽しく働くことができそうな感覚が、ワクワクしてきました。「先輩、教えていただいた通り人生をしっかりと楽しみますね」

しんどくても、前を向き乗り切ろう